

平成27年度学校評価総括表

奈良県立登美ヶ丘高等学校

教育目標	自他敬愛に基づく協調の精神に富んだ心豊かな人間性を育成するとともに、自ら定めた目標に向かって意欲的に取り組む態度を育てる。		総合評価
運営方針	日々の学習活動を大切に生徒の進路実現を目指すとともに、学校行事や部活動を通して「知・徳・体」のバランスのとれた生徒を育成する。		
平成26年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標	3
日々の教育活動の成果として、規範意識が向上した。自転車通学マナーとともに、情報倫理に関する指導が課題である。部活動や勉強にまじめに取り組んでいるが、主体性と積極性に欠ける面も見られる。キャリア教育の推進によって、自らの目標を明確にし、主体的に取り組む姿勢を育成したい。教員間の連携を高めるために組織の改編をし、一定の効果は見られた。今後も、組織力強化に向けて取り組みたい。生徒の学力向上のために、教員の授業力のさらなる向上を目指す。	キャリア教育の推進	・学校教育のあらゆる活動を通して、将来のビジョンを描くことができるように進路指導を充実させる。 ・規範意識を高め、信頼される人間の育成を図り、コミュニケーション能力を向上させる取組を推進する。	
	学習意欲と学力の向上 自立した学習習慣の確立	・できるだけ早く進路目標を設定させ、目標達成のためにHRや個人面談を充実させる。 ・基礎基本を大切に、論理的思考力・表現力・判断力を育成するために授業改善や工夫を図る。	
	グローバル人材育成(国際理解)の推進	・グローバルなコミュニケーション能力を高めるために、英語教育を重視する。 ・郷土の歴史や風土を知り、郷土を愛する精神を育成する。	
	地域との連携	・本校教育活動に対する地域住民の理解を得るための取組を推し進める。 ・開かれた学校としてあらゆる機会を利用して情報を発信する。	
	学校の組織力の強化と教育力の向上	・目標達成状況や課題の共有化・焦点化を図り、解決に向けた方策を探る。 ・学校評価を活用し、外部評価を念頭に置いた改善を図る。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	年度末				
			自己評価	成果と課題	改善方法	学校関係者評価	
総務 企画部	保護者・各種団体等との連携を深める。	本校に係わる育友会・各種団体等との多方面に渡る円滑で緊密な連携・協力を行い、本校教育への関心を高め、生徒を取り巻く教育組織環境を固める。育友会総会への多くの保護者の参加と組織の活性化を図る。	4	7月に実施した大阪大学・関西大学への育友会の大学訪問は40名を超える参加者があり、保護者の関心の高さが伺われた。文化祭バザーでは多くの育友会役員に準備協力いただき、購入者数、売り上げも予想を超えた。そのほか育友会役員、委員や後援会役員に来校していただく機会を多く設けた事により、生徒の現状を見ていただくことができた。	30周年に向け、記念式典、記念行事の準備、参加協力等、育友会、同窓会、後援会等とより一層緊密な連携を図っていきたい。また、各分掌と協力して職員、生徒との全校体制で当たっていききたい。	不登校傾向の生徒に対する対応が必要である。初期段階の対応とクラスにおける居場所作りに努めてほしい。	
	卒業生との連携を強化する。	堅固な同窓会組織の確立を目指し定期的な監事会の開催、監事間の連携など、活動の活性化を図る。同窓会総会には100名以上の参加を目指す。	3	本年度の同窓会総会は周知不足のため参加者が少なく残念であった。27年度卒業生には事前に生徒宛に出席確認の往復はがきを作成させており、また監事との連携を密にすることで30周年にふさわしい出席者数を期待している。			
	式典等の企画・運営と各部との連携を図る。	全校体制による、厳粛で、温かみがあり、生徒・保護者・教職員のいずれの心にも残る入学式・卒業式の運営を行う。始業式・終業式・修了式も規律ある式を行う。	4	厳粛な中でも温かみのある入学式を行うことができた。始業式・終業式も生徒に対し適切な指導の下、規律ある式が行えた。今後の卒業式、修了式、そして来年度においても各分掌と連携して取り組んでいきたい。			
	学校評価計画表の作成、総括会議を主催し、充実したものとする。	各分掌、教科、学年の基幹目標をまとめ、学校の教育方針を提示する。総括会議を主催し、様々な角度から教育活動を検証し、次年度への課題を明らかにする。	3	各分掌・学年・教科から出された基幹目標を、本校の教育方針としてまとめ、「学校評価計画表」として作成し、学校経営計画に掲載した。総括会議については、昨年の方法を踏襲して実施した。	より良い教育活動推進のために総括をして、次年度に活かしていきたい。		SNSの利用する生徒も増加していると思われる。これがいじめにつながらないように学校でも注意してほしい。家庭教育の部分もあるが、『心』を育ててほしい。SNSは気付きにくいですが、担任が教室の様子を観察すれば分かるものだと思う。
	生徒、保護者からの意見を集約し、学校運営に活かす。	各種のアンケート、調査を行い、保護者、生徒、外部関係者等の学校への評価を明らかにし、その反省の元、教育活動に活かせるようにする。	3	1, 2学期末に実施した保護者アンケート結果により、保護者が学校からの情報を得る割合や生徒と会話する時間が増加し、本校への関心度も上昇してきている。今後、他の分掌とも協力して本校の教育の取り組みを更に発信していく必要がある。	本年度のアンケート結果を分析し、新年度より、保護者に本校教育の取り組みへの関心を深めてもらうため、各分掌と協力していかなければならない。		アクティブ・ラーニングを日々の授業の中で導入して、生徒が自分で考える力を付けてもらいたい。また、生活においても、子どもたちに気づかせるような指導が大切である。
	語学研修の企画、運営準備をする。	オーストラリア語学研修の実施にむけて研修内容を企画・推進し、業者や訪問校との打ち合わせ、保護者への説明会の開催などの中心的役割を担う。	4	この研修を期待して本校に入学する生徒もおり、過去の経験を踏まえてよりよい研修内容を企画・推進し、業者や訪問校との打ち合わせ、保護者への説明会を行った。第8回から引率教員が1名になったことや、ホストファミリーの問題点の改善等に対応して、今後の希望生徒のため充実した研修になるように努めた。	新入生や受検生に研修内容を適切に伝え、関係部署や業者と密に連携しながら、来年度以降もこの研修が実施していけるよう参加者からの問題点を改善できるよう検討していきたい。		生徒と教員との信頼関係をさらに構築してほしい。規範意識を高めるためにも、信頼される先生であってほしい。何事も相談しやすい先生は信頼されているからである。そのためには、先生はその後ろ姿で教えてほしい。
	本校の活動を広報し、教育活動の周知に努める	学校案内誌『碧き風』の制作、オープンスクールの実施等を通じて本校の良さを内外に伝える広報活動を行う。生徒自らが様々な役割を担うことで参加し、本校生に愛校心が育つように取り組む。	4	本年度、過去の中学生のアンケートの要望を考慮し2度オープンスクールを実施した。様々な役割を生徒が担い、例年以上の参加者に対し本校の良さを発信した。ホームページを適時に更新し、学校案内『碧き風』を充実させ広報活動を図りたい。	オープンスクールを8月と10月の下旬に実施する。生徒が主体となる今年の方法を推し進める。		

教務部	本校生の実態を踏まえ、魅力ある教育課程を編成する。	平成28年度の教育課程編成に取り組むため、進路指導部との連携を図りながら、各教科の要望を5月中にまとめる。	3	3	平成28年度教育課程編成では、概ね各教科の要望をまとめることができた。 週31コマ（火曜日7限）に関して、来年度は月曜日7限の実施状況とを照らし合わせながら、平成29年度教育課程編成に生かしていきたい。	本校生徒に必要な（求められる）力をつけるための学校行事や教育課程を考え続け、最善の方法を検証し続けることが何よりも大切である。  少人数制授業に対応するために、時間割と教室の調整に努めたい。  「総合的な学習の時間」に関する研修会を持ち、教員間の共通理解を一層促進する。	
		選択科目の設定及び見直し作業と少人数授業の調整作業を行う。	3				
		週31コマの実施状況を検証し、平成28年度の教育課程編成に生かす。	2				
	授業時間確保の取組を一層進める。	時間割変更や各行事の円滑な運営により、授業時数の確保に努める。	3	4	3		授業時間確保の取組は成果があったと考える。 昨年度よりも少人数制授業が増加したため、特別教室の確保に工夫を要した。本年度以上に少人数制授業が計画されている来年度は、本年度以上に調整の必要がある。
		チャイムと同時に授業が開始できるよう、教員・生徒の共通理解を図る。	4				
		定期考査前の希望授業コマを確保するため、早期に調整表を提示するとともに、希望コマが100%叶うように努める。	4				
		特別教室や講義室の活用を工夫し、時間割変更時のダブル・ブッキングが起らないようにする。	3				
		年間定期考査時間割を早期に提示することで、より計画的な作問・採点ができるようにする。	4				
	総合的な学習の時間「倭」の円滑な運営に必要な企画を行う。	総合的な学習の時間で培うべき力の教員間における共通理解を得るようにする。	3	3	3		同様の形態で来年度も実施する「総合的な学習の時間」について今年度の反省事項を活かして計画を、「総合的な学習の時間検討委員会」で審議する。
		定期的な打合せを開き、P D C Aサイクルが上手く機能するようにする。	2				
教育課程研究指定校として、実り多き研究報告ができるような取組をする。		3					
生徒指導部	基本的生活習慣の確立とマナーの向上をめざす。	「遅刻を減らす」ことを年間の指導目標として、遅刻・入室カードの有効活用により、生徒および保護者との共通理解をはかり遅刻の減少を目指し取り組む。	3	3	遅刻生徒の減少を目指したが、後半各学年とも増加傾向にあった。さらに生徒に応じたきめ細やかな指導が必要である。 登校指導において、指導場所及び曜日分散させ、週3日は何処かで立哨指導が行われているようにしてきたことは、一定の効果があった。 後半、自転車事故等の報告が多数あった。10月には臨時の自転車通学生集会をおこない、交通マナーに対する呼びかけをおこなった。	不登校傾向のある生徒が増加傾向にあり、教育相談体制の充実ときめ細やかな生徒指導など早期対応の必要性がある。  遅刻の多い生徒の指導として、「遅刻をするな」という指導だけではなく、やりがいのある学校生活、安心・安全な教室といった、生徒たちにとって居場所のある環境づくりが必要である。  交通マナーをはじめとした、規範意識の向上に繋がる取り組みをすすめる。  「教えてください」の活用を含め、学期に1度の生徒理解に繋がる取り組み（アンケート等）を実施する。  特別活動・LHRにおける事前研修を行う。  生徒会指導部との連携および学校行事への生徒指導部としての関わりを積極的に行う。	
		月一回の全校集会と毎日ショートホームルームでの指導を行う。	3				
		週3回の正門と周辺交差点の通学路指導を行う。各学期に1回の自転車通学生集会の開催と安全意識の定着を図る。	3				
		月3回のターミナルおよびバス乗車指導を行う。	4				
		生活委員会によるクラス・校舎内掲示用の標語とポスターを作製し、登下校マナー等の向上及び啓発活動を行う。	3				
	『毎日全員が、瞳を輝かせ、胸を張って、笑顔で登下校』を目標に、あらゆる機会を通じ、一人ひとりの生徒理解に努める。	教育相談、特別支援を必要とする生徒の支援と、関係分掌との連携を密にし、明るく健全な生徒の育成に努める。	3	4	3		より積極的な教育相談の必要性を感じる場面も見られた。 年度当初に、面接資料「教えてください」を活用し、生徒理解に努めることができた。また、第2学期末に「こころと学校生活等に関する調査」とともに必要に応じて面談を実施し、生徒理解に努めた。 本年度、生指・人権合同講演会において腰塚勇人さんによる「命の授業」講演を実施し、生徒への情操教育に努めることができた。 特別活動・LHRにおける企画・立案・内容において目的を明確に示すことができなかった。
		アンケート「教えてください」を活用し、面接週間の充実を図り、生徒理解に努める。	4				
		職員と生徒が自然に挨拶をかわす、明るく素直な校風の確立する。	3				
		人権教育部との連携を図り、合同ホームルームの充実を図る。	4				
	部活動の活性化と学校行事を通じて積極的に取り組むリーダーの育成を図る。	生徒会指導部との連携を密にし、学校行事等を充実させ、生徒会役員のリーダーとしての意識を高める。	3	3	3		生徒会指導部との連携はとれてはいるが、実際に生徒や生徒会役員との連携は、生徒会指導部に任せているところが多い。
文化祭実行委員会の活動を補佐し、その充実と活性化を図る。		3					

進路 指導部	向上心を持って、粘り強く努力した生徒が希望の結果につながるようサポートできる体制を確立する。	生徒個々に対しては、校外模試を利用した動機付けを行い、スケジュールに基づく学習に取り組ませる。	3	3	3	1・2年生は年間3回の校外模試の日程を意識させ、志望校の設定を含め準備させることができた。一方で過去問を解く習慣は十分に徹底できなかった。3年生は、進路先別や大学毎の集会等で意識付けを行ったが、積極的な姿勢への大きな契機となるには不十分で情報収集等でも依存する傾向は払拭できなかった。各学年とも学年集会を計画的に実施することができなかった。	進路指導の取り組みを3年間を見通した計画的で効果的なものになるように改善したい。そのために、他分掌との連携、各学年・教科との協力体制の構築や調整を確実にしたい。
	生徒が、高い学習意欲を持ち、自主的に学習に取り組む姿勢を育てる指導体制をめざす。	実力養成講座を通じて、希望進路実現のための実力を身につけさせるとともに、目的意識を持って自主的に学習する態度を養う。 1・2年生に対しては、語彙読解力検定・GTEC等、チャレンジタイムと連動した取り組みの中で、結果にこだわる指導を行う。	3 3			3年生の実力養成講座は早朝講座を含め、予定通り実施した。2年生は生徒が積極的に参加するように内容の検討を進めたい。チャレンジタイムは、キャリア教育的視点や大学入試制度の変更も視野に入れて、より意義深いものに改善したい。	3年間を見据えた講習計画や講習のあり方を考え、より多くの生徒にとって魅力的な講習になるように工夫を行う。
	10年後・20年後を見据えたキャリア教育を推進し、将来像を抱かせる。	他分掌と連携し、チャレンジタイムをはじめ様々な機会を通じて、社会に必要な要素を自覚した主体的な学校生活を送らせる。 各講演会・教科・HR・部活動を通じて将来を見据えた指導を行う。	3 2	3		3年生対象に5月と10月に多くの大学から講師を招き、大学別進路説明会を実施し、生徒の進学意欲をかき立てた。また、1・2年生対象として職業人を招き、働くことと社会貢献の意義を深める取り組みを行った。キャリア教育の取り組みとしての語彙読解力検定やGTECをさらに効果的に全体的な取り組みへと進化させたい。他分掌との連携やチャレンジタイムを活用して社会の仕組みを考えさせる取り組みは十分とはいえず、今後の課題としたい。	校外模試についての意識付けと対策を確実に行う。 チャレンジタイムについては、検証した課題の改善策を講じ、発達段階に応じて基礎的内容から思考力・判断力・表現力の育成を中心とした応用的内容に深化させる取り組みに発展させる。
	保護者に対し、必要な情報を伝えるとともに、意思疎通を図る取り組みを行う。	保護者対象の進路説明会を行い、進学・就職に対する理解を深めてもらう。 配布物を通じて、保護者に情報を提供する。	3 3	3		保護者対象の講演会を5月の育友会総会時と、7月に3年生、8月に1年生で実施し、保護者から好評であった。さらに3月に1・2年生で実施する。7月の大学資料頒布会には多くの保護者の参加があった。	検定については、その意義を生徒にわかりやすく伝え、目標を持たせてみんなで努力する取り組みになるようにしていく。
	教員に対して、外部で得た様々な情報・データを示し、教員全体で指導についての共通理解を図る。	各種の情報提供を行い、研修会を実施するなど、本校の実態と大学受験の現実に対する共通理解を深める。 生徒に対して、あらゆる教育活動を通じて、生徒が向上心を持って取り組めるよう指導する。	3 3	3		進路指導部からの情報提供が不十分であった。来年度は進路指導研修会を充実させ、教員を通じて生徒により適切な情報が伝わるようにしていきたい。	アンケート等を適切に実施し、生徒理解のもとに適切な進路指導を展開する。
	人権 教育部	さまざまな人権問題を自らの課題と考えて、周囲のなかまと力を合わせて解決していく生徒を育てる。	3年間を見通した人権ホームルーム活動の年間計画に沿った取組を推進するとともに、指導案の作成や資料等の収集に努める。 他の分掌と連携しながら、多方面から人権問題にアプローチできるような工夫を行う。	3 3		3	3
他者との個性のちがいをよく理解し、共に社会生活をおくることのできる生徒を育てる。		ろう学校との交流会やボランティア活動などの体験を通して、社会における共生の在り方について考える機会を設定する。 人権について発信する機会を増やし、人権問題を日常的に考えられるように努める。	3 3	ろう学校との交流会は本年度も2回実施した。参加生徒は生徒会、家庭クラブ、解放研部員、その他有志という限られた範囲ではあるが、生徒にとっては有意義な出会いの場となっている。 生徒昇降口と玄関のモニターを使用して、人権についてのメッセージを掲出した。	次年度にむけて、事前に参加生徒が簡単な手話についての学習を行っておく等の機会を設けていきたい。 モニター活用の恒常化をさらにすすめることと、その他人権に関する情報を広める方法を検討していきたい。		
生徒ひとりひとりが集団の中で、健康と安全に関する諸問題を自主的・科学的に解決する能力と心身の健全な発達とその維持は全ての生活の基礎である事を理解させる。		生徒ひとりひとりが集団の中での自主的・自発的に心身の健康を維持する事ができる態度と知識を理解させる。 各種検診や測定の結果に基づき、自身の心身の状態を正確に把握し健康の保持増進と一層の体力の向上を図る。学校保健委員会や生徒保健委員会の充実と活動内容の更なる活性化を目指す。	3 3	3	教科体育や保健指導の成果として健康の保持増進や体力の向上について理解する事ができた。また、集団の一員としての健康管理や健康増進にも役立っている事が大切である。 身体測定や各種検診の結果を理解させ、自身の心身の状態を正確に把握し、常に良好な状態を身につけさせる。学校保健委員会や生徒保健委員会等を通じて、集団の中における科学的・合理的な学校保健に努める。また、教育相談支援室やカウンセラー・保健室・学級担任との協力体制を更に構築していく必要がある。	実生活に即した教材の精選や「健康・体力」について興味・関心を持てる態度や知識を育てる。 「健康教育」として特に心の健康に関して、更に理解を深める必要がある。不登校傾向の生徒に対して適切な対応をするための、生徒理解に関する研修を重ねる事が大切である。	
健康 教育部	運動と食育の重要性を知らせ自身の生活に生かす事の大切さを理解させる。	運動と安全に関する知識理解と実践力を付けさせ、各種の体育活動を通じて健康に対する興味・関心を深める。 食の重要性と正しい知識を身につけさせ、健康で安全な学校生活を送る為の必要性を理解させる。	3 2	3	3	各種の体育活動を通じて健康に関する自己管理能力を高め、安全と運動に関する自主的で理論に基づいた積極的な姿勢を身につけさせ、集団の一員としての健康の保持増進とその体力の向上を目指した態度と行動を習得させることが重要である。今後は食育の推進に努め教科としての「家庭」「保健」との協力を密にしてその実態を把握して食習慣の重要性を理解させる。	3年選択制体育を実施する中で、集団として行動する際に必要な「考える力」を付けさせ、それを実際の活動に移す為の共通理解の大切さを学ぶ。 食習慣の大切さを理解させ、自身の生活の中で生かせる能力と態度を養う。
	美化委員の自主的活動を支援する。	美化委員の活動を通じて、日常生活の場である校舎・教室等を快適で美しく保とうという意欲と意識を育てる。	3			文化祭・体育大会など各種学校行事に於いて積極的に環境維持に努めた。清掃奉仕活動は部活動顧問とも連携して成果を上げる事が出来た。	本年も文化祭において、美化委員としての任務の重要性の理解と、それに取り組む意欲の喚起を即す指導の徹底が必要である。
	各学級での美化活動を支援する。	学級での美化活動に対する支援や環境倉庫の整理整頓と用具の整備を進める。	3	清掃用具の使用に関して丁寧に正しく使うように指導した。消耗品の補充は美化委員で協力して行えた。		用具を大切に使用する事や消耗品の補充に関して周囲と協力しておこなう。	
	購買の利便性と利用する生徒のマナーの向上を目指す。	購買との連絡を密に取り、生徒の利用の便を図る。更に利用状況等を学級担任と共通理解を図る事で利用マナーの向上を図る。	4	購買とは連絡を密に取り合い、協力して運営する事ができた。今後も生徒に対してマナーを守り、正しく利用する事を指導する。		今後も購買との連携を密にして、協力して進める事が最重要である	

文化図書部	図書館の有効利用を促進し、生徒の知識欲の高揚に努め、読書習慣を身に付けさせることにより、自ら思考し判断する力や表現力を養う。	各教科・各分掌との連携を図り、必要な資料や情報を提供し、教育課程の展開に寄与する。	4	4	年度当初に学校行事年間計画やシラバスを参考に年間計画を立て、展示や資料提供を実施したが、計画通り実施できなかった展示がいくつかあった。さらに、教科との連携が必要である。教職員の推薦や生徒の希望などを考慮して本を購入したり生徒に呼びかけたりして、読書活動の推進ができた。年間（1月末現在）貸出冊数は、1年は678冊、2年は775冊、3年は804冊、教職員571冊、合計2828冊の貸し出しがあった。これは昨年度よりも約280冊上回っている。図書委員会については、日常の図書館活動の他、「読書週間」「ベルマーク集め大会」「文化祭参加」「古本交換市」などを実施した。今年度は約13,000円分のベルマークが集まり、ベルマーク預金で図書委員会選定の図書を約20,000円分購入した。また、委員会活動の一環として文化祭で「ブラックパネルシアター」を上演した。図書委員により自主的な活動を期待している。	教科の担当者と相談して資料提供を実施する。 蔵書の充実を図り、生徒が利用しやすい環境を整える。 広報活動に努め、生徒の目を図書館に向けさせる努力を続ける。		
		読書の推進に努め、年間貸出冊数1人3冊、各学年800冊以上を目標にする。	3					
		図書委員会の広報活動を活発にし、ベルマークの収集に取り組み、図書の充実をはかる。	4					
	文化・芸術、伝統への理解と認識を深め、豊かな情操を育む。	文化祭における質の高い発表をめざし、文化委員の指導と支援に努める。	3	4			文化委員会は、各クラスのポスター・プログラム・表彰（投票用紙・賞状作成や集計）を担い、文化祭を盛り上げる取り組みをした。また学級に文化祭関連の参考図書コーナーを設置した。文化祭における質の高い発表の支援をしていきたい。 文化鑑賞会について本年度は、けいはんなホールを会場として文化祭と同時に実施した。kogakusyu-SHOによる和楽器と現代楽器を融合させた音楽を上演し、事後アンケートでは96パーセントの生徒が「よかった」と回答した。鑑賞会の実施の時期と方法については来年度以降も考えていきたい。 カルタ会について1月末に予選・本選を実施した。全員参加の予選では盛り上がりが見られた。来年度はHR2時間を使つての実施となるため、実施方法を再考する。	生徒会指導部と連携をはかる。 アンケートにもとづき、実施の時期と方法を検討する。他の分掌と連携して、行事の精選、統合を図る。 年間HR計画にもとづいて効果的な運営法を考える。
		文化鑑賞会（音楽）の内容の充実に努め、文化に対する意識を高める。	4					
		百人一首カルタ大会の成功に向けて文化委員会活動を活発にし、日本の古典文化への理解と関心を高める。	4					
	情報・視聴覚機器の有効利用を促進し、学習意欲の高揚に努める。	図書室内の情報機器活用を促進し、情報収集の支援をする。	3	3			図書室内のパソコン活用についてタブレット端末で対応している。	
		視聴覚室内及び図書管理室内の視聴覚機器の活用を促進し、効果的な授業展開に寄与する。	3					
		電子情報機器を適切に管理する。	2					
	生徒会指導部	生徒会役員の活動を促進し、全校生徒のリーダーとなり得るよう、各自の意欲と資質を高める。	生徒会定例役員会の時間を利用し、生徒会顧問が他校の具体的な実践例を紹介するなどの研修を実施する。具体的には、新入生歓迎行事や文化祭運営全般、全体行事などの内容について考察させ、リーダーとして実践させる。昨年度からの生徒会キーワードとして、学校行事に全校生徒を巻き込んでいく。	4			4	生徒会本部役員は、校外で家庭教育啓発チーム「きらら」140に参加した。校内での定例会を毎週実施した。新入生歓迎の行事での運営と部活動紹介の冊子作りや事務処理など、生徒が活動できた。清掃活動や挨拶運動を地元の中学校との合同で開催するために尽力した。生徒の主体的な活動を推進していきたい。
生徒会専門委員会の活動を活性化させ、生徒の主体的な活動を促進する。		生徒会の各専門委員会で立案された活動計画により、積極的な活動を行わせる。具体的には、ポスター掲示・スローガンなどの作成にとどまらず、各委員会と生徒会役員、部活動集会等も利用しさらなる啓蒙を図る。	3	生徒総会や臨時生徒総会を経て、本年度から、生徒会役員の任期とともに、生徒会専門委員会の任期も通年性に変更した。これにより、各委員会が年間を通して継続性のある活動ができるようになった。しかし、集会等ではまだ教員主導の様子が多々見られる	生徒総会だけでなく、様々な行事で生徒が全校生徒の全面に出て、行事をプロデュースする力を各委員会の指導の際に徹底したい。			
各々の分野の生徒リーダーの育成を生徒会が他分掌と連携して、早期より生徒リーダーの育成を図る。		30周年を迎える前年として、母校愛を促すような研修会のあり方を生徒会本部、クラス室長、部活動キャプテン（部長）・各専門委員長などがリーダー研修（オリエンテーションコンダクター）がともに良き学校にするために日頃から協力し合う。	4	オリエンテーションコンダクターを初めてすべての部活動参加型にすることができた。	本校教員が、生徒一人一人の少しのサインから、その生徒の潜在能力（可能性）を日々の学校内外の活動でほめて伸ばしていくような指導をしていきたい。			
生徒どうしの連帯感や愛校心を高め、開かれた学校の部分を生徒力で学校の活性化を図る。		生徒の主体的・積極的な活動のために、生徒どうしがお互いを支え合い、信頼しあえる関係を構築する。また、各分掌と連携を図り、入学式、オープンスクール、文化祭、体育大会、秋風のコンサート、フレッシュマンミーティング、卒業式などに保護者や一般の方々が本校を訪れた際のおもてなしの企画・運営を行う。	4	学校行事を通じて、様々な活動に取り組んだ。特に文化祭を校内外の実施にできた。暑い時期に文化鑑賞会と併せてホールで鑑賞でき、2年生は、打合せやリハーサルと大変であったがその成果は大いに発揮できた。課題は、学校行事をもっと生徒主体のものとするところである。	文化祭は、文化図書部、教務部と合同で行った。来年度、創立30周年でかつ公開文化祭の年をより弾力的な内容で展示等の中身の充実を考えていきたい。			
分掌内の分担内容を効率的に行う。		分掌内の分担内容を各部員が理解し、部員相互の協力によりスムーズな運営を図る。	3	分掌内の分担内容を生徒会指導部員が理解し、協力することにより、概ね効率的に行うことができた。	全職員の共通理解が得られるように生徒会指導部からもっと発信していきたい。			

第1学年	基本的な生活習慣の確立をはかり、健康的で規則正しい生活を行い、学校生活を充実させる。	日常の挨拶の励行、不注意による遅刻が最小限になるよう努める。	3	3	3	日常の挨拶は定着しつつあるが、まだまだ不十分である。教員が範を示しつつ、より自然に指導していく必要がある。遅刻に関しては、2学期後半から不注意によるものが増えつつある。家庭とも連携して改善させたい。積極的に部活動に参加し、生き生きと活動している生徒が多い。生活リズムも整っていて、自己をよく律している生徒が多い。	挨拶は社会人として求められる大切な素養であることをくり返し説明する。教員が生徒への丁寧な挨拶を心がけ生徒に範を示す。不注意による学期の遅刻が5回以上、10回以上になった時、家庭とも連携して問題点を明らかにして、必要に応じて生活改善に努めさせる。部活動に関する指導では、担任から積極的に顧問に働きかけて、部活動の様子をよく理解した上で、指導・激励をする。予習・復習をしているかどうかの確認を、ノート・プリントの提出や、小テストで継続的に行う。家庭学習ができていないのが本校生の実情なので、手間暇をかけて校内で指導する。成績不振の生徒については、顧問とも相談し放課後の補習を定期的に行う。進路指導部と協力して、教員向けの進路研修を定期的に行う。生徒向けの進路講演会等にも、保護者の出席を促す。生徒・保護者・教員が三位一体となって、よりよい進路実現のために取り組む。学年教員が大学で研修（大学の先生や事務方との意見交換・交流等）できるような、進路研修を企画する。
		部活動への積極的な参加を促す。部活動では目標と期限を設定させた取り組みをさせる中で、自己管理能力を身につけさせる。	3				
	目標を立て、向上心を持って生活にのぞみ、学習に取り組ませる。授業を大切に、家庭学習も充実させる。自主的に学習する姿勢を養う。基礎基本の定着をはかるために、定期考査後だけでなく、考査前にも補習を行う。	部活動に参加することなどで、個々の生徒が持つ課題を成し遂げられるように励ます。それにより、学校生活に意欲的に取り組ませる。	3	3			
		予習・復習を定着させる。何よりも日々の授業を大切にさせる。	3				
	面談やHRなどで自己の将来像を思い描かせ、その実現に向かう姿勢を育てる。自己実現に取り組ませる中で、相談にのったり、補習を行うなど、適切な支援を行う。	3					
第2学年	学校生活に積極的に取り組ませ、行事などを通して、生徒の連帯感や協調性を高める。同時に、他者への思いやりの心を育て、互いの違いや個性を認め合い連帯していける個人を目指す。	生徒間や教員とのコミュニケーションの機会を出来るだけ多く体験させるため、各種委員などの役割を活用し、人前での発表の機会を多くする。	4	4	4	チャレンジタイムや「総合的な学習の時間」を使い、プレゼンテーションの機会を持たせたことは、とてもよかった。「総合的な学習の時間」では、われわれ教員が思っている以上に生徒はこの授業形態に慣れているように感じた。小学校・中学校でかなりそのスキルを身につけている。より積極的な取り組みに繋がるように、教員がよく準備をして指導に当たっていききたい。互いの違いや個性を認め合う心は持っているため、今後は他者への思いやりを、自分の外へと出していく勇気を持たせたい。	
		行事や総合的な学習の時間を通し、自己の役割を果たし、協力して活動をする。	4				
		HRや総合的な学習の時間を通じて、相手に共感する姿勢や他を認め合う態度を養う。自ら調べ学ぶことの喜びを体験することで、能動的な生活態度を身につけさせる。	4				
第2学年	基本的な生活習慣の確立をはかり、健康的で規律正しい学校生活ができるようにする。年齢にふさわしい判断力、行動力を持った人間へと成長させる。	学校での生活状況に目を配り、必要な助言やアドバイスをを行い、規律正しい安定した生活ができるように指導する。家庭と連絡を密にして生活の乱れをただしていく。	4	4	4	担任・副担任を中心に、学年を挙げて生徒たちの生活に目を配り状況の把握に努め、適宜指導・支援を行った。昨年度に比べ、行動面や言動に落ち着きが見えてきており、成長が感じられる。遅刻・欠席は全体的に改善傾向にある。改善の見られない特定の生徒に対する、粘り強い指導が必要である。	
		規範意識を養い、問題行動には時宜を得た適切な指導を行う。様々な機会を利用して、中堅学年としての自覚を持たせ、自主性を育て、自らルールを守るように取り組む。	4				
	自己の目標を明確にし、向上心をもって学習に取り組ませる。授業を大切にさせるとともに、家庭学習を充実させる。自主的に学習する力をつけさせる。	進路について考えさせ、目標を持たせるようにする。進路目標を見すえ、また高校生としての教養を身につけられるよう、具体的学習方法を自ら考え、自主的に学習する力をつけさせる。	4	4			
		面接などを通じ、生徒の学習状態をつかみ家庭学習の方法を工夫することで、学習の充実に努める。	4				
	積極的に学校生活に取り組ませ、行事をとおして生徒の連帯感・協調性を高める。互いの個性や違いを認め合いながら連帯してゆける仲間作りをすすめる。	学校行事や総合学習に積極的に取り組ませ、責任を果たす大切さ、協力する素晴らしさを体得させ、仲間意識を高め、団結する集団作りを行う。また修学旅行において、協調性を育み、教養を身に付けさせる。	4	4		4	クラスがよくまとまり、校外学習・文化祭・修学旅行などの学校行事に積極的に取り組むことができた。総合学習ではそれぞれに自己の役割を果たすことで、責任感と協力することの素晴らしさを体験することができた。より一層仲間意識を高めていきたい。中堅学年としての自覚を持って、積極的に部活動に取り組んでいる。上級生としての役割、後輩への指導助言などを通じて、人としての成長が見られる。クラブ活動が学校生活そのものの支えとなっている者も多く、部活動の意義の大きさ・その大切さが感じられる。
		部活動に積極的に取り組ませ、人間的成長を果たし、学校生活を充実させる。	4				
HRや日常の学校生活で、互いの違いや個性を認め合いながら、連帯感を築けるようなクラス作り、仲間作りを努める。互いを支え、高め合える仲間作り、あらゆる機会を活用して学年として取り組む。		4					
					規範意識については、希薄な面も感じられるので、生徒の動静をよく観察し、学年全体で今後も適宜指導を行いたい。学校行事や部活動を通じて、中堅学年としての自覚も出てきており、それに伴う悩みにも直面している生徒もいる。様々な機会を通じて助言を与えつつ、自主・自律のたくましさや養いたい。進路HRや学年集会などの指導において、進路についての意識が高まるように語りかけてきた。明確な進路目標を持つ生徒が増え、周りの生徒によい影響（刺激）を与えている。今後は、自分にあった学習方法を見出させるなど、自主的な学習に入れるように指導していきたい。HRや日常の学校生活の中で、互いの個性を認め合い、尊重する空気が感じられる。困っている者を助ける生徒も多くいる。生徒の持つこの優しさを、集団としての「力」として、3年生での進路決定に向けて取り組ませたい。		

第3学年	高校生活仕上げの学年として生活習慣の確立を図り、健康的で規律正しい学校生活が出来るようにする。社会に出て行くにふさわしい自立心をもった人間形成を目指す。	生徒の学校での態度・行動に目を配り、生活状況を的確につかみ、必要な助言や指導を行う。心が安定し規律正しい生活ができるように家庭と連絡を密にし問題点を探り解決を図る。	4	4	個々の生徒にきめ細かく対応することが心の安定、人間形成に繋がる。3カ年皆出席生徒が多くいる一方、遅刻・欠席が増えた生徒も少ない。粘り強く地道な指導、関わりが求められる。	何より入学当初より3年間を通して生徒を育てる姿勢、取り組みが必要である。それぞれの生徒を理解することに努め、個々に応じた指導、支援を継続的に行っていかなければならない。それには教員ひとりひとりが大人として生徒と向き合うことが必要であり、そのためには教員自身の力、勉強、成長が必要である。また最終学年としては3学期の授業が少ないが、その中でもホームルームを設け生徒たちに卒業後の生き方を語る時間が必要である。年間を通して進路関係に関わる研修が多くあるがそれにも学年全体で関わり、生徒の把握に努めるようにしたい。	
	進路についてしっかり考えさせ、自らの目標に向かって、向上心を持って学習に取り組むように指導する。授業に集中して取り組ませ、家庭学習を充実させる。学習方法を工夫し、自主的に学習する習慣をつけさせる。	チャレンジタイムに関して自らテーマ・課題を見つけて自主的に学習し、集中する態度を身につけさせる。実力養成講座に積極的に参加を呼びかけるとともに家庭での学習習慣を確立させる。	3	3			目の前の進路目標だけでなく、広く大きく人生を語ることのできる教員の力量が必要である。授業は静かに受けているが、積極性に欠け、また家庭学習の習慣も受験を目前にしてやっとできてきたという生徒もいる。生徒たちが進路へ取り組み始めるのが遅い。
		HRや日々の学校生活において、自己を見つめさせ、向上心を持って具体的な進路目標を設定し、それに向けて努力出来るように助言・援助・指導を行う。進路実現のための、基礎学力と応用力を身につけ、授業に集中して取り組めるように指導する。	4	4			
	積極的に学校生活に取り組ませ、行事を通して生徒の連帯感・協調性を高める。互いの個性や違いを認め合いながら協力できる仲間作りをして、他者と共存できる社会性を身につけさせる。	学校行事に積極的に取り組ませ、責任を果たす大切さ、協力する素晴らしさを体得させる。お互いに支えあうことが人としての基本であることを確認させる。	4	4	生徒たちは最終学年として学校行事によく取り組んだ。また部活動をしている生徒は引退後も生活を乱すことなく学習によく取り組んでいた。お互いに支え合う姿も随所に見られ生徒たちの成長を感じた。個の集まりがクラスであり、学年であり、学校である。教師からの生徒一人一人へのきめ細やかな関わりが全体へと波及しよい方向へ進んでいくと実感した。		
		部活動に引退まで積極的に取り組ませ、人間的成長を果たし、学校生活を充実させてゆく。学習が単に受験を目的としたものだけにとどまらず、幅広い教養と生きる力となるように、指導する。	3				
		HRや日常の学校生活で、互いの違いや個性を認め合いながら、コミュニケーションを深め、進路実現に向けて一致団結して取り組めるようなクラス作り、仲間作りに努める。	4				

評価基準 4：達成度90%以上 3：達成度70%以上 2：達成度50%以上 1：達成度50%未満